

# 校正ノート

No.15  
2016.1

晃南印刷株式会社  
プリプレス部  
校正担当／中里（内線301）  
制作／竹沢（内線305）

ありがとう  
80周年に感謝



## 申を「さる」と読むこと

今年は、申（さる）年。何故、申をさると読むのだろうか？もともと子丑寅…の十二支は順番を表す並びのことであって動物の意味はなかった。中国には別に動物を並べた言い方がある、それも十二支同様12種類だったので、十二支を覚えやすくするためにそれぞれの文字に動物の名を当てていったのだそうである。それで申はさるになったとのこと。ちなみに申年、子年、辰年は閏（うるう）年。

1. さる。十二支の九番目。時刻では、今の午後4時、およびその前後の2時間。方角では、西南西。
2. のばす。まっすぐに引きのばす。=伸
3. もうす。のべる。意見や気持を外に出して展開する。

- 字の成り立ち**
1. いなずま（電光）を描いた象形文字。電の原字。
  2. 「臼（両手）十印（まっすぐ）」で、手でまっすぐのばすこと。伸の原字。

**申を含む漢字**

神 「示（祭壇）+申」で、いなずまのように、不可知な自然の力のこと。  
紳 「糸（ひも）+申」で、からだをまっすぐのばすおび。  
呻 うめく。声を長くのばしてうなる。



## 十干（じっかん）

干支（えと）は、十干十二支のこと。今年は丙申（ひのえ・さる）で、丙が十干の一つ。十干は、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸に、中国の古代思想五行説より木・火・土・金・水に兄（え）と弟（と）の組み合わせを当てたもの。即ち、

木+兄（きのえ）→甲	木+弟（きのと）→乙	火+兄（ひのえ）→丙	火+弟（ひのと）→丁
土+兄（つちのえ）→戊	土+弟（つちのと）→己	金+兄（かのえ）→庚	金+弟（かのと）→辛
水+兄（みずのえ）→壬	水+弟（みずのと）→癸		

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いややすい使い方等、校正中これでいいのかともやもやした気持で仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

### 「おざなり」と「なおざり」

「おざなり」は、誠意のない、その場かぎりの間に合わせであること。

おざなりの計画 おざなりにする おざなりを言う

「なおざり」は、いい加減にしておくこと、おろそかにすること。

自分の健康をなおざりにする。（自分の健康のことをきちんと考えていない、いい加減にしている）

### 「若干」と「弱冠」

「若干」幾らか、さほど多くない数量

「干」を「一」と「十」に分解して、「一の若（ごと）く、十の若し」（一のようであり、十のようでもある）から、はっきりしない、あまり多くない数を表すようになった。

「弱冠」もともと古代中国では、「弱」は20歳の男子で、成人の証として「冠」をかぶったことから、20歳のことであったが、現在では単に若年を言う意味に変わってきている。

## 1月歳時記

- 1日(金) 元日…………… 国民の祝日は「元日」、「元旦」ではない  
2日(土) 書き初め…………… 元々は宮中行事、江戸・明治以降庶民にも広まる  
6日(水) 小寒…………… 「寒の入り」。節分までが「寒の内」、立春が「寒の明け」  
7日(木) 七草…………… 七草がゆを食べて一年の無病息災を祈る  
11日(月) 鏡開き…………… 武家の風習から「切る」は忌み言葉、「開く」と言う  
成人の日…………… 大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日  
—— 忌：山本有三 … 栃木市出身 語録「裸より強いものはない」  
15日(金) 小正月…………… どんど焼き、神社で正月飾りや古いお札などを燃やす  
20日(水) 大寒…………… 寒気を利用した食べ物（凍り豆腐、寒天、酒、味噌など）を仕込む時期  
27日(水) 雨情忌：野口雨情………… 1945年疎開先の宇都宮市鶴田町で死去。旧居を保存、詩碑が建つ

### 身に沁む言葉

「校正・校閲とは誤字、誤用を正すためにあるのではなく、「社会的に通行させててもよい」とするための不可欠の装置である。」（石川九陽『「書く」ということ』文春新書）



### 竹沢メモ

新しい年がやってきました！2016年を機に何か新しい事を始めようと思う今日この頃ですが、なかなか体が動かず出来ずついで…。今年こそ何か新しい事を始めます！魚釣りと言いたい所ですが、まずは健康からという事でスポーツを始めたいと思います。昔よくやっていたバドミントンなどをやります！